

全校集会 校長講話（8月31日）

テーマ：「まさか」を「もしも」にかえる

おはようございます。2学期が始まって1週間が経ちました。

明日、9月1日は「防災の日」です。今から100年以上前、1923年の9月1日に巨大な関東大震災が発生したことから制定された、命と日常について考える特別な日です。

先週の始業式でも話をしましたが、今年の夏休みは、ニュースなどで全国各地で起きた大きな自然災害の映像を目にすることが多かったと思います。

遠くの出来事のように思えるかもしれませんが、「災害はいつ、自分の目の前で起きるかわからない」ということは、私たちが住むこの大阪でも全く同じです。

防災というと、水や食料の備蓄、避難場所の確認を思い浮かべます。もちろん、それらはとても大切です。しかし先生は、もう一つ絶対に欠かせない「備え」があると思っています。

それは、「もし今、ここで災害が起きたら自分はどうか」と想像する力です。

登校中だったらどうするか。家族と離れている時だったらどうか。スマホが使えなくなったらどうするか。通学路が通れなくなったらどうするか。

「誰かが指示を出してくれるのを待つ」のではなく、目の前の状況を見て情報を集め、より安全な行動を自分自身で判断する。

「まさか自分には起きないだろう」と他人事にするのではなく、「自分だったらどうするか」と考える当事者意識を持つこと。その小さな意識の違いが、いざという時に自分自身や大切な人の命を守る最大の力になります。正解がない状況でどう行動すべきかを考え抜くことこそ、皆さんにとって最高の「頭の筋トレ」です。

災害そのものを無くすことはできませんが、自ら考えて備えることはできます。備えるとは、ただ恐れることではなく、未来に起こり得ることを想像し、その時自分に何ができるかを考えておくことです。

先生たちも改めて、校内の安全確認や避難行動について確認します。皆さんもぜひ家に帰ったら、明日の「防災の日」をきっかけに、避難場所や連絡方法、備蓄品について話題にしてみてください。

今日こうして仲間と出会い、共に笑い合える「当たり前の日常」を自分たちの手で守り抜くために、自分と仲間の命を守る当事者意識を持って、今週も安全で素晴らしい一週間にしていきたいと思います。

以上で、先生の話が終わります。